

平成 20 年度 事業報告書

(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

【実施方針】

- 1 生涯学習関連機関との連携、ネットワークを構築することを通して、市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。
- 2 市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。
- 3 財団が有する専門性・柔軟性を生かしながら、効率的・効果的な事業運営を行う。

【事業報告】

1 **学習機会提供事業**

(寄附行為第 4 条第 1 号に掲げる事業)

(目的) 施設機能を有効に活用することにより、市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、市民の多様化した学習ニーズに対応した機会を提供する。

(効果) 学習機会の質的・量的拡充が図られることにより、受講者層が拡大し、市民の生きがいつくり、社会参加が促進された。

(支出額) 21,600,145 円

(1) さっぽろ市民カレッジ

年 3 期 (平成 20 年 4～8 月、9～12 月、平成 21 年 1～3 月)、市民及び市内勤務者を対象に、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の 3 つの系を柱に、年間 207 講座を実施した。

市民活動系、産業・ビジネス系においては、リカレント教育を中心に段階的・継続的な学習機会の提供を目的とした講座を実施した。

文化・教養系は、学習活動の入門編としての趣味・教養講座をはじめ、実用的内容の講座や現代的課題（社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題）の解決に資する講座、「さっぽろ」を多角的に学ぶ講座など、幅広い分野で実施した。

さらに今年度より、「教えたい」・「伝えたい」という想いを持つ市民が、これまでの経験や学習成果を活かし、ちえりあをはじめとする市内各地の公共施設を会場に講座を開く「ご近所先生企画講座」を、文化・教養系講座として本格導入した。

（会場数 6 会場 開講数 26 講座 受講者数 450 名）

【実績】全 207 講座

（市民活動系 19 講座／産業・ビジネス系 12 講座／文化・教養系 176 講座）

受講者数 4,237 名／修了者数 3,739 名

学位取得者：「学士号」9 名、「修士号」6 名、「博士号」7 名

学位取得者累計：「学士号」45 名、「修士号」29 名、「博士号」19 名

（２） ジュニア・ウィークエンドセミナー

小中学生を対象に、学校週 5 日制に合わせて、週末を有意義に過ごすための学習の機会を提供した。

ア 札幌市生涯学習センター

札幌市教育委員会から業務を受託し、生涯学習センターの施設機能を活用したパソコンや料理の講座、また、他の関連団体とも協力して、様々な分野の体験・実践型の講座を、それぞれ毎月 1 回程度土曜日あるいは日曜日に実施した。

【実績】 「体験・実践教室」 受講者数 366 名

「親子料理教室」 受講者数 156 名

「親子パソコン教室」 受講者数 196 名

イ 札幌市青少年科学館

理科系知識の啓発を目的として、月 1 回程度、主に土曜日に小中学生を対象とした科学教室を札幌市教育委員会と共催で開催した。

【実績】参加者数 724 名（年 10 回実施）

（３） 生涯学習関連機関等連携事業

ア 連携講座の実施

さっぽろ市民カレッジにおいて、社会のニーズに応じた専門的かつ高度な知識経験を有する機関と連携した講座を実施した。

【実績】開講数 3 講座

イ ボランティア啓発・交流イベントの開催

博物館や美術館等の生涯学習関連施設で活動するボランティア団体の交流と研修を目的として「生涯学習ボランティアメッセ in SAPPORO 2009」を実施した。

(平成 21 年 2 月)

【実績】参加団体 16 団体 参加者数 355 名

ウ インターンシップの受入れ

生涯学習センターにおいて北海道大学から学生を受入れ、就業体験研修（インターンシップ制度）を実施した。（平成 20 年 9 月上旬の 10 日間）

エ 手稲区まちづくり参加・入門教室企画運營業務の受託

手稲区から業務を受託し、地域のまちづくり活動に興味・関心を持つ市民の方を対象に、活動のきっかけづくりとなる講座を実施した。（平成 20 年 11 月）

【実績】受講者数 8 名

オ 手稲区まちづくり寄席企画運營業務の受託

手稲区から業務を受託し、落語を通じた人とのふれあいやご近所付き合いがまちづくりに繋がる落語のイベントを実施した。（平成 21 年 3 月）

【実績】参加者数 197 名

カ さっぽろふるさと学の集い

地域の自然・人・歴史などを学び、市民に郷土（ふるさと）への愛着を深めるとともに、それらに精通した人材の掘り起こしとネットワークの繋がりを目指し、4 種類のイベントを同日に開催した。（平成 20 年 6 月）

【実績】参加者数 シンポジウム 約 100 名 分科会 延べ約 300 名
上映会 約 100 名 展示会 延べ約 500 名

(4) 生涯学習センター施設機能活用事業

施設の利用促進や、新たな活用方法等の PR を目的に、親子を対象とした音楽ワークショップを実施し、「さっぽろの歴史と音楽のタベ」のコンサートでその成果を披露した。

【実績】参加者数 32 名

(5) 視聴覚学習機会提供事業

ア オペラシアター

視聴覚センターが所蔵する音楽資料等の利用促進を図るために、映像教材（LD、DVD）を活用した質の高い芸術を学ぶ機会として、ちえりあホールにおいてオペラシアターを開催した。（年 6 回）

【実績】受講者数 962 名

イ 16ミリ映写機操作技術講習会

市民を対象に、学習活動や地域活動の中で16ミリフィルムを利用する学習効果の向上を目的として、視聴覚ボランティアグループ「オンデマンド」の協力を得て講習会を実施した。(年4回)

【実績】受講者数 33名

(6) 青少年科学館学習機会提供事業

ア 「プラネタリウム祭り」の開催

プラネタリウム探検・絵本の読み聞かせや詩・音楽と融合させた「第3回プラネタリウム祭り」を開催し、プラネタリウムの新たな可能性の追及と青少年科学館のPRを図った。(平成20年12月)

【実績】3,323名(期間中全4日間のプラネタリウム観覧者数)

イ 宇宙セミナー

宇宙科学に携わる研究者を迎え、市民を対象に講演会を開催した。山下了氏(東京大学素粒子物理国際研究センター准教授)を迎え、「ノーベル賞と宇宙」と題し、実験教室と講演会を実施した。(平成21年1月)

【実績】141名

ウ 星空の歩き方

青少年科学館の天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら、主に大人を対象として、宇宙・天文についての知識を深めるための講座を開催した。(年3期各6回)

【実績】1期(平成20年5月～7月) 36名

2期(平成20年9月～11月) 31名

3期(平成21年1月～3月) 19名

エ 4次元デジタル宇宙シアター

天文に対する興味・関心を喚起するため、国立天文台が開発した4次元プログラムによって立体視できる宇宙空間の映像を、天文指導員の解説を交えて上映した。

(平成20年11月、平成21年2月)

【実績】実施回数 78回 参加者数 3,485名

オ 大人のための星の学習

初心者を対象に、天文学に対する興味・関心の喚起と天文基礎知識の普及を図るため、天文学習と実際の星空を観望する天文教室を開催した。

(平成20年11月、平成21年1～3月)

【実績】1回目 昼 23名・夜 22名

2回目 44名

カ 親子天文教室

小学生とその保護者を対象に、天文に対する興味・関心を高めるため、天文学に係る工作教室（手作り望遠鏡・星座立体模型）を実施した。

（平成 20 年 8 月、平成 21 年 1 月）

【実績】 1 期 39 組 96 名

2 期 20 組 43 名

2 人材活用育成事業

（寄附行為第 4 条第 2 号に掲げる事業）

（目的） 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、学習活動を通じた市民活動及びまちづくり活動を担うことのできる人材を育成する。

（効果） 学習活動を通して人材を育成し、その人材が活躍することにより、学習活動⇒学習成果の還元⇒さらなる学習活動、といった学習活動の質的・量的拡充が図られ、結果として、ボランティア等による市民活動及びまちづくり活動の活性化を図ることができた。

（支出額） 1,325,512 円

（1） 学習支援者育成・活用事業

さっぽろ市民カレッジの受講修了者等が学んだ成果を活かすため、活動の場を提供し、講座の講師（補助講師）として活用する等、市民の活動支援を行った。

ア 市民ファシリテーター（ワークショップ関連の講座修了者）

イ ちえりあビデオクルー（ビデオ撮影・編集関連の講座修了者）

ウ IT サポーター（パソコン関連の講座修了者）

（2） 生涯学習指導者研修事業

区民センターや地区センター等の職員を対象に、地域住民の学習活動を支援する職員の資質向上を図るため、事業の企画・立案の研修講座を実施した。

【実績】 参加者数 15 名 （平成 21 年 3 月）

（3） 生涯学習ボランティア育成事業

ちえりあ学習ボランティアを主として、さっぽろ市民カレッジの講座やちえりあフェスティバルへの市民参画の充実を図るため、積極的に研修会等を行った。

【実績】研修回数9回 参加者数125名

(4) **天文指導員の養成**

生涯教育の一環として地域における天文普及活動を担う人材を育成するため、市内在住の大学・短大生等及び一般の方を対象に、天文事業への参加や定期研修の実施により天文指導員を養成した。

【実績】登録者数44名 修了者数9名

(5) **科学館ボランティアの養成**

工作指導などを中心に科学館事業に主体的に参加し、その一翼を担い、自ら知を楽しむとともに他の利用者楽しさを伝える科学館ボランティアを養成した。

【実績】登録者数8名

(6) **市民講師育成事業**

これまでの経験や学んだ成果を活かしたいと考えている市民を、「ご近所先生企画講座」の講師として募集し、その活動に必要な知識やノウハウの取得、資質向上を目的とした研修会等を開催した。

なお、講師は広く市民から募集するとともに、「ちえりあ市民講師バンク」をはじめ、各区で行っている各種人材バンクなどを活用し、関係機関と連携を図りながら行った。 【実績】研修回数2回 ご近所先生企画講座講師数26名

3 **学習活動支援事業**

(寄附行為第4条第3号に掲げる事業)

(目的) 生涯学習活動に関する様々な情報の収集及び発信、学習相談など幅広い市民の学習活動を支援するとともに、多様な視点から生涯学習活動のきっかけづくりを提供し、生涯学習の普及啓発を図る。

(効果) 全市的な広報及び事業を展開し、市民と地域に根ざした事業を実施することで、生涯学習活動の普及促進や、生涯学習と芸術・文化、地域との繋がりを深めることができた。

(支出額) 17,502,130円

(1) メディアプラザ運営事業

講座・サークル等の学習機会情報の提供、図書の閲覧・貸出、音楽・映像資料の視聴、インターネットによる情報検索サービスなど、市民の学習活動を支援するメディアプラザの運営を行った。

【実績】メディアプラザ利用者数 49,394名

(2) 生涯学習情報収集・発信事業

ア さっぽろ生涯学習ネットワーク情報Sá:[サア]の発行

生涯学習関連施設・団体が実施している学習機会の情報を一覧で提供する情報誌を発行した。

【実績】年3回発行(平成20年4・8・12月)計21,000部

イ ホームページの活用

イベント等の多様な情報の掲載と、講座等への新しい申し込み機能を追加し、ホームページの一部リニューアルを行った。

ウ 生涯学習センター広報誌の発行

生涯学習センターの機能や事業を広く市民へPRするための広報誌「L a C h i e r i a t t e (ら・ちえりあつて)」を発行した。

【実績】年4回発行(平成20年4・7・10月、平成21年1月)計60,000部

(3) 生涯学習普及啓発事業

ア ちえりあフェスティバル

市民との交流を深めながら生涯学習の普及啓発を図ることを目的として、生涯学習総合センターを会場に、ちえりあフェスティバルを3日間にわたり開催した。

ちえりあロビー特設ステージにて、びっくり料理ショーイベントや、琴サークルによる演奏、ちえりあ学習ボランティア企画による懐かしい思い出の歌コンサート等を実施した。(平成20年8月)

【実績】3日間延べ参加者数 13,410名

イ サークル発表会

ちえりあ及び札幌市内の区民センター等で活動している舞踊やコーラス等のサークル団体が、学習成果を発表する場として、ちえりあホールにてサークル発表会を3日間にわたり開催した。(平成20年11月)

また、サークル発表会に併せて、11月14日から20日までの7日間、絵画・書道・染料等の工芸部門の10サークルが参加し、作品展示を行った。

【実績】参加団体数58団体(767名) 来場者数1,951名

(4) 共催事業

ア 札幌市中学校 私たちの科学研究発表会 (共催：札幌市中学校文化連盟)

市内中学校の科学クラブを対象に、研究活動発表会を開催した。

(平成 20 年 11 月)

【実績】参加校数 13 校 36 テーマ 266 名

イ 科学技術週間事業「科学映画会」(共催：日本科学技術振興財団)

平成 20 年 4 月から 5 月のゴールデンウィーク中に、科学技術週間協賛事業として科学技術映像祭の入選作品を上映した。

【実績】入場者数 543 名

ウ 青少年のための科学の祭典札幌大会 (共催：日本科学技術振興財団他)

中高生を中心とした出店形式による実験や工作を行った。(平成 20 年 9 月)

【実績】参加者数 1,855 名

エ 気象講座 (共催：日本気象学会北海道支部)

身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師が最新の研究・情報をわかりやすく紹介し、気象学の啓発を図った。

【実績】受講者数 21 名

オ 中学校校内放送コンテスト (共催：札幌市中学校放送教育研究会)

札幌市内の中学校の校内放送局員が制作した放送番組と各放送局で活動するアナウンサーの放送技術に関するコンテストを開催した。(平成 20 年 7 月)

【実績】参加校数：8 校 50 名

カ 中学校校内放送技術講習会 (共催：札幌市中学校放送教育研究会)

札幌市内にある中学校の校内放送局員の技術向上を図ることを目的とした講習会を実施した。(平成 20 年 8 月、平成 21 年 1 月)

【実績】8 月 参加校数 10 校 60 名 / 1 月 参加校数 6 校 41 名

キ 日本映画名作祭 2008 (共催：札幌映画サークル)

東京国立近代美術館フィルムセンターが保有する貴重な日本映画フィルムの提供を受け、珍しい「日本映画」名作シリーズの 4 作品を 2 日間上映した。開催にあたっては、札幌映画サークルの協力を得て、両者による実行委員会形式で実施した。

(平成 20 年 10 月)

【実績】入場者数 1,326 名

上映作品「西鶴一代女」「雨月物語」「山椒大夫」「近松物語」

(5) 視聴覚教材利用促進事業

視聴覚センターが所有する映像教材を活用し、市民が無料で観賞できる「ちえりあ映画会」を開催した。また、夏休み・冬休み期間には、親子で楽しめる子ども向け作品を上映した。(年6回)

【実績】入場者数 1,646 名

(6) 文化振興事業

生涯学習活動のきっかけとして、質の高い芸術・文化に触れる機会を提供した。さらに、地域に根ざした芸術・文化の活性化を図り、その振興を目的として以下のイベント等を開催した。

ア ちえりあ寄席

市民が日本の伝統芸能文化である「落語」に親しみ、生涯に渡って楽しむ機会を提供するため、社団法人落語芸術協会と連携して、道内初の本格的寄席「ちえりあ寄席」を開催した。

【実績】4公演 1,484 名

イ 落語学校鑑賞会

生涯学習センター近郊の小学校の児童(4年生以上)を学校単位で無料招待して、寄席太鼓の実演や解説などを交えた、参加体験型の落語鑑賞会を開催した。

【実績】4公演 1,135 名(琴似小、西野第二小、八軒西小、発寒小)

ウ 親子で寄席ちようちんをつくろう

伝統文化を子ども達に伝えるため、寄席や落語等の伝統芸能について解説を行った後、寄席ちようちんに絵を描き、その作品を寄席期間中にロビーで展示した。

【実績】受講者数 親子 15 組 33 名

エ さっぽろの歴史と音楽の夕べ〜日本各地の唄探し“西区発寒”の旅〜

民謡歌手の伊藤 多喜雄氏と、西区発寒の歴史や伝統芸能を再発見するとともに、その継承活動を行っている地域住民が参加するコンサートを開催した。

(平成 20 年 9 月) 【実績】1 公演 330 名

オ カルチャーナイト

カルチャーナイト全体テーマ「なかま」にあわせ、ちえりあロビーでハンドベルのミニコンサートとさっぽろ市民カレッジ講座の作品展を開催した。

(平成 20 年 7 月) 【実績】参加者数 130 名

カ イマジン音楽祭

平和教育を目的とし、小・中・高の児童・生徒が平和をイメージした詩を書き、それに地元の音楽家が曲を付けて発表するコンサートを、イマジン音楽祭実行委員会と連携して実施した。また併せて、ちえりあロビーにて応募作品の詩や絵のパネル展示を行った。（平成 20 年 10 月）

【実績】詩の応募数 113 通／絵の応募数 34 通／観覧者数 365 名

キ さっぽろ市民カレッジ受講者の作品展示

さっぽろ市民カレッジの受講生が描いた水彩画や鉛筆デッサン画、受講生が撮影した写真などの作品を、1 週間にわたってロビーで掲示する展示会を実施した。

（年 6 回）

ク ちえりあ-幼稚園児のお絵かき展

児童の学習活動を発表する場として毎月 1 週間、市内の私立幼稚園児による絵の作品展示を、社団法人札幌市私立幼稚園連合会との共催により実施した。

【実績】参加園数 14 園

ケ ちえりあロビーコンサート

ちえりあ 1 階ロビーを会場に、ハンドベルやコーラスなどのミニコンサートを実施した。市民が芸術文化に触れる機会を提供するとともに、ロビー空間の有効利用を図った。（年 6 回）

【実績】参加団体 6 団体 観覧者数 延べ 820 名

(7) 青少年科学館天文学習支援事業

ア 天文相談コーナー（星のへや）の運営

代表的な天体望遠鏡や参考図書などを常備した天文相談コーナーを設け、天文に興味を持った人の初歩的な疑問に答えた。

イ 天文ホームページ「天文 Q & A コーナー」

ホームページに Q & A コーナーを設け、本で調べることが難しい天文に関する質問の受付と回答を行い、学習を支援した。

(8) 青少年科学館情報発信事業

ア 「天文ニュースコーナー」による情報提供

青少年科学館 1 階エントランスホールに「天文ニュースコーナー」を設け、最新の天文情報を紹介した。

イ 「科学館ニュース」による情報提供

「科学館ニュース」を館内に掲示するほか、市内小中学校・幼稚園等へ毎月配布し、最新のイベント情報等を発信した。

【実績】配布先 314 校（小中学校）63 施設

ウ ホームページによる情報発信

ブログや職員の声などを掲載することで、より親しみやすい形で新しい情報を提供した。

4 調査研究事業

(寄附行為第 4 条第 4 号に掲げる事業)

(目的) 市民の学習ニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

(効果) 財団が有する情報や専門性を駆使しながら行った調査研究を、財団実施事業の内容改善に活かすことにより、事業参加者の拡大につなげた。

(支出額) 405,138 円

(1) 生涯学習に関わる調査研究

さっぽろ市民カレッジの企画委員に依頼し、受講者アンケートをもとにした学習機会や学習ニーズ等の分析や、学習支援者やご近所先生企画講座の講師研修についての調査を行った。

(2) 科学技術に関する資料の収集

解説の基礎資料、展示物及び展示の改良に資するため、市販の出版物や他施設における発行物等を収集した。

(3) **天文資料の収集**

インターネット画像、市販の出版物及び他施設における発行物の収集に加え、科学館天文台、札幌市天文台及び移動天文車を活用して天体写真を撮影し、収録した。

(4) **札幌市青少年科学館職員による調査研究所見等の集約**

科学館職員が科学・科学技術分野及び館の運営に関する所見・報告を作成し、これを編集した。

5 **生涯学習関連施設管理運営事業**

(寄附行為第4条第5号に掲げる事業)

(1) **札幌市青少年科学館の管理運営**

札幌市の指定を受けて、科学技術に関する学習機会や体験機会の提供を目的として、

札幌市青少年科学館の管理運営を行った。

(展示事業の管理運営、プラネタリウムの管理運営、特別企画の開催、常設イベントや体験イベントの開催)

(支出額) 401,703,362 円

ア 展示事業の運営

(7) **常設展示**

展示物を「見て」、「触れて」、現象を「考えてみる」ことができるよう、〈宇宙〉

〈北方圏〉〈原理・応用〉〈マルチメディア〉のテーマを主として、より強い印象が残り、理解しやすい展示物の整備を行った。

(イ) 特別企画の開催

常設展示では伝えきれない科学情報を提供するため、話題性の高いテーマや特定のテーマを深く掘り下げた、体験型展示を中心にした特別企画を、小中学校の夏休みや冬休み等の期間に合わせて実施した。

夏の特別企画「大地球展 2009」	
趣旨及び概要	洞爺湖サミットが行われた本年、北海道は地球環境について考える良い機会となった。そこで、環境を含め、人類および各種生命が生きている地球について知識を深め、地球についてより身近に感じてもらうことを目的とし、開催した。
実施期間	7月26日～8月24日（30日間）
展示構成	会場を5コーナーに分け、「導入部」で地球の成り立ちを、「地球デザイン」では地球の外観や内部構造等そのプロポジションを、「地球オリジナル」では地球の特徴を紹介し、「地球アライブ」では地球が今も生きていると実感できる地球の活動を報告した。また、最終コーナーの「地球シンキング」では観覧者がそれまでのコーナーの見学を通して考えたことを発表できる場を提供した。
入館者数	66,012名
冬の特別企画「科学戦隊サイエンジャーⅢ 不思議な海賊船」	
趣旨及び概要	科学戦隊サイエンジャーシリーズ第3弾。身近な原理や科学について体験しながら学んでもらう。海賊船に隠された謎を解き明かしながら進んでいく体験展示。
実施期間	1月4日～1月18日（15日間）
展示構成	不思議な海賊船の中を探検し、海賊が仕掛けた様々な科学の罠を突破しながら、海賊のお宝を見つけ出す。会場内で提示された7つの謎に挑戦し宝に見立てたスタンプを集め、7つの宝を集めた人は、参加者が協力し挑戦することができる展示物に挑戦する。他にも科学原理を利用し、海賊に挑戦する展示物や、ライブステージを設けた。
入館者数	29,505名
春イベント「大万華鏡展 2009 ～万華繚乱の世界～」	
趣旨及び概要	日本万華鏡協会主催の日本万華鏡大賞の過去8回の主な受賞作品や有名作家の作品を一同に集め、実際に見て触ってもらい、光の科学や芸術に触れてもらう機会を提供する。
実施期間	3月20日～4月5日（3/23・24は休館）（全15日間）
展示構成	日本万華鏡協会主催の日本万華鏡大賞の過去8回の主な受賞作品を約60点展示、有名作家の作品を約40点展示。

	実際に見て触ってもらい、光の科学や芸術に触れてもらう。
入館者数	37,118 名

(ウ) 実演・実習・実験等

来館者が科学や科学技術について理解を深められるよう、サイエンスショーやテレビスタジオなど、解説を交えながらの参加形式による実演等を行った。

また、来館者が多い日曜・祝日に、科学に親しみやすい実験や工作会を行った。

サイエンスショー	<p>化学・物理系実験を解説員が実演し、科学の不思議さや楽しさを伝え、科学への関心を高めるため、延べ704回実施した。</p> <p>【実績】観覧者数 15,642 名</p> <p>題材：4月～6月「いろいろかわる色が変わる」 7月～10月「空気が語るスピーカーの力」 11月～2月「静電気きみの体は 10000 ボルト！」 3月 「まわすとわかる！回転のひみつ」</p>
ちょびっとサイエンス	<p>科学への関心を高めるため、身近にある材料を利用した簡単な実験等を行い、解説員とのコミュニケーションを通して、科学の楽しさを伝えた。</p>
実演展示 (テレビスタジオ、人工降雪装置、低温展示室等)	<p>装置の動きや模型展示の仕組みでは伝わりにくい科学現象を、実演や解説により紹介した。</p>
日曜実験室	<p>実験を体験することによって、子どもたちの「科学する心」を養うため、延べ66回実施した。</p> <p>【実績】参加者数 809 名</p> <p>テーマ：4月 「クロマト調査隊 2008～インクの秘密にせまる！～」 5月～8月 「懐中電灯ってどうなってるの？」 9月～12月 「すごいぞ 食塩のパワー！」 1月～3月 「きみもめざそう コマ博士！」</p>
日曜工作室	<p>工作を通して科学的動作原理、材料の利用、道具の正しい使い方等の習得と興味を喚起するため、延べ90回実施した。</p> <p>【実績】4,252 名</p> <p>4月～6月「桜すこーぷ」「森の番人ホーちゃん」「ポンポコぼん太」 7月～11月「がんばれ子ガメ」「サマースコープ」「金メダリストのテントウ虫」「もみじスコープ2」「木材スーパーわに太郎」 12月～3月「X'mas ファンタジー」「ミラクルレインボー」「元気にぴょーん」「SLサイエンスジャー号」</p>
移動科学館	<p>教育普及活動の積極的な展開を図るため、来館が困難な小学校や聾学校などで科学教室を開催した。</p> <p>また、活動の拠点を更に広げ、他団体の事業にも協力した。</p> <p>【実績】1回 100 名（事業協力 1回 250 名）</p>

幼児のための 出前サイエンス	就学前の子どもが楽しみながら、科学に慣れ親しむことができるよう、幼稚園等へ出向き、科学に関する簡単な実演ショーなどを行う出前科学教室を開催した。 【実績】24回 3,302名
ちびっこワークショップ	就学前の子どもたちの科学の芽を育むため、遊びの要素を取り入れた実験等を行う親子向けワークショップを開催した。 【実績】14回 1,176組 (2,111名)
バックヤードツアー	来館者の好奇心を満たし、また、満足度を高めるため、展示室内の普段見ることのできない裏側を見学する事業を実施した。 【実績】5回 122名

(I) 講座・教室等

サイエンジャー 科学教室	科学への興味や関心を喚起するため、月1回程度、小中学生を対象に、工作・実験等の科学教室を実施した。 【実績】16日 40回 受講者数 856名
親子向け実験・工作教室	科学技術をより身近で親しみやすく感じられるように、親子で参加できる実験・工作教室を実施した。 (平成20年5・6・11月) 【実績】3回 59組 118名
中高生による 科学教室	中学校・高校の科学クラブの研究成果の発表を中心とした中高生による科学教室を実施し、科学クラブの支援を行った。(平成20年10月) 【実績】10校 113名
大学生による 科学教室	大学生等の科学研究の実践の場を提供・支援するため、大学生が講師となり小中学生に実演・解説などを行う科学教室を実施した。(平成21年3月) 【実績】2校 49名(北海道大学・千歳科学技術大学)
環境科学展	市民の環境問題への意識を高めるため、企業などと連携し、環境問題と対策技術の現状などを紹介する「第3回環境科学展」を実施した。(平成21年2月) 【実績】出展 17団体 観覧者数 2,254名
先端科学技術講座	科学技術への理解を深めるため、宮城大学 小嶋 秀樹教授を講師として迎え、最新のロボットを紹介する講座を実施した。(平成21年3月) 【実績】観覧者数 2,411名
工作技術競技会	工作を通して科学への興味を喚起するため、自分で作ったブーメランを使って行う競技会を実施した。 (平成20年10月) 【実績】1回 25名

(オ) 学校支援事業

総合的な学習・ 職場体験の受入れ	児童・生徒との質問応答のやり取りや職場体験を通して、学校側の科学に関する要望に限らず、進路学習的な受入れも行い、科学館での学習効果を上げた。 【実績】46校 934名受入れ
実験実習セットの 貸し出し	学校では準備が困難な実験・実習セットを貸し出し、学校の授業効果の向上に協力した。 【実績】7校 12セット貸し出し
家庭教育学級の受入れ	札幌市内小学校の家庭教育学級を受入れ、児童と保護者が一緒に学ぶ場を提供し、家庭の教育力の向上に協力した。
教材教具の共同開発	理科嫌いの子どもたちをなくしていくために、学校と科学館が連携し、授業をつくりあげていくための教材や学習プログラムの開発に協力した。
教員研修	授業やクラブ活動に活かせる観察・実験の紹介や実習 を中心に実施し、教材研究に協力した。 【実績】3回 59名
博物館実習生の受入れ	大学からの依頼により、学芸員の資格取得のための博物館実習生を受入れ、指導した。 【実績】4期 11名

イ 天文事業の運営

プラネタリウムの機能を活かし、天文への理解を深めた。

(7) プラネタリウム

一般投影	<p>天候や時間に関係なく星空を投影できるプラネタリウムを使って、星や星座を知る機会、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供した。</p> <p>【実績】観覧者数 90,273名／投影回数 1,331回</p>
学習投影	<p>小中学校を対象に、理科授業の一環として実施した。学校の授業では理解することの難しい天体の動き、街中では見ることのできない満天の星空を疑似体験することで、天文への興味関心を喚起した。</p> <p>【実績】観覧者数 市内小学校 122回 202校 15,915名</p>
特別投影	<p>季節あるいは新しい天文的話題をテーマとし、通常よりも掘り下げた内容の投影を行うとともに、通常の投影時間では鑑賞できない人への機会の提供のために実施した。</p> <p>【実績】観覧者数 1,048名／投影回数 7回</p>
イブニング プラネタリウム	<p>特別投影に加え、日中に行っている一般投影を週末の夜間行うことにより、通常の投影時間では観覧できない人へ鑑賞の機会を更に拡大した。</p> <p>【実績】観覧者数 332名／投影回数 4回</p>
字幕つき プラネタリウム	<p>一般投影に字幕をつけることにより、聞きとりにくい方への鑑賞の機会を提供する。また、星の名前や用語などを視覚的に確認でき、学習理解を助ける投影を行った。</p> <p>【実績】観覧者数 253名／投影回数 7回</p>

(イ) 天体観望事業

天体観望会	<p>主に、プラネタリウムの特別投影やイブニングプラネタリウムに併せて、科学館駐車場において移動天文車等を使った観望会を行った。</p> <p>【実績】来場者数 657名／実施回数 7回</p>
移動天文台	<p>天文台を利用する機会の少ない市民に、移動天文車等を使用し、自分達の住む地域で気軽に天体観望する機会を提供した。</p> <p>【実績】参加者数 2,677名／実施回数 24回</p>
札幌市天文台 夜間公開	<p>天文に対する興味・関心を高め、科学への夢を育むため、都心近接の立地条件を活かして多くの市民に天体観望の機会を提供した。</p> <p>【実績】利用者数 1,391名／実施回数 33回</p>

(ウ) 共催事業

a 道民の森観望会（共催：財団法人北海道森林整備公社 道民の森）

当別町にある道民の森と共催で実施し、札幌市内では見られない星雲などの淡い天体を見る機会を提供した。（平成 20 年 5・8・9 月）

【実績】参加者数 1 回目 35 名／2 回目 230 名／3 回目 120 名

b 「宇宙の日 作文・絵画コンテスト」（共催：財団法人日本宇宙フォーラム）

「宇宙の日（9 月 12 日）」を記念して、日本宇宙フォーラムとの共催により市内小中学生から宇宙に関する作文・絵画を募集し、展示・表彰した。

【応募数】作文 小学生 123 名・中学生 31 名

絵画 小学生 596 名・中学生 43 名

c さっぽろ星まつり（共催：財団法人札幌市公園緑化協会前田森林公園）

市民の天文に対する興味・関心を深めるため、前田森林公園と共催で、2 日間にわたって天体観望会事業を実施した。（平成 20 年 9 月）

【実績】入場者数 2,200 名

(2) 札幌市生涯学習センターの管理運営

札幌市の指定を受けて、市民の生涯学習に関わる活動を支援することを目的として、札幌市生涯学習センターの管理運営を適正に行った。

（支出額）367,490,332 円

ア 貸室事業

市民の幅広い学習活動を支援するため、ちえりあホールをはじめとした各種研修室を、それぞれの活動の場として提供した。

また、ちえりあホールや陶芸室、焼窯室においては、更なる利用促進を図るため、割引サービスを実施した。

イ 施設の有効活用

学習成果の発表の場として展示スペースの無料開設、受験生等に対する学びの場として空き室の開放等、利用者のニーズに合わせた弾力的な運営を行った。

(3) 視聴覚センターの管理運営

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進、市民団体や学校等への学習支援を行うことを目的として、視聴覚センターの管理運営を適正に行った。

(支出額) 33,632,120 円

ア 学習教材開発事業

提供教材の充実を図るため、学校教育及び社会教育の関係者等に教材制作を委託して、市販教材にはない、地域に密着した特色あるビデオ教材を制作した。

【実績】新規制作教材数 10 本

イ 視聴覚教材貸出事業

市内の小中学校をはじめ、幼稚園、児童会館、市立図書館、町内会及びサークル等の団体に対して、学習活動に役立つ 16 ミリフィルム・ビデオ・DVD 教材の貸出しを行うとともに、新たな教材を購入し、教材の充実を図った。

【実績】・教材貸出数：8,617 本

(内訳：幼稚園 460 本、小学校 4,657 本、中学校 1,401 本、
高校・養護学校 123 本、社会教育機関 1,976 本)

・新規購入教材数：18 本

また、平成 21 年 1 月より、ホームページ上で視聴覚センターが所蔵する自主制作教材のデジタル配信を新たに実施し、利用促進の充実を図った。

6 収益事業

(寄附行為第 4 条第 6 号に掲げる事業)

(収入額) 19,468,989 円 (支出額) 14,329,711 円

(1) 売店・自動販売機事業(札幌市青少年科学館)

札幌市青少年科学館の管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした売店・自動販売機事業を行った。

(2) レストラン・自動販売機事業(札幌市生涯学習センター)

札幌市生涯学習センターの管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的としたレストラン・自動販売機事業を行った。